

歴史 GIS による江戸日本橋地域の空間復原とその活用

洪 明真

首都大学東京 都市環境科学研究科

連絡先: <rozong@hotmail.com>

(1) **動機:**従来の歴史地理学における歴史 GIS 研究では、マクロスケールの地域、あるいは土地変化が少なかった地域が復原対象として取り上げられてきた。近年、歴史 GIS による過去の都市空間の復原が試されているなかで、土地変化が大きかった東京地域に関しては、復原方法の煩雑な作業が課題とされている(渡邊・村山・藤田, 2008)。したがって、本研究では過去の東京地域のなかで日本橋地域を事例とし、「町」データを作成し空間復原を行った。

(2) **方法:**日本橋地域の同一地理情報を特定するためには、ベースマップが重要である。一つ目が、「昭和 5 年 帝都復興事業の区画整理と整理後の対象図」である。日本橋地域は、大正 12(1923)年の関東大震災によって地域のすべてが焼失された。つまり、昭和 5(1930)年 3 月に終了した「帝都復興事業」の前後の土地変化が特定できれば、日本橋地域の市区改正前の土地状況がわかる。二つ目が、五千分の一の「東京実測全図」である。明治 19(1886)年~明治 21(1888)年、内務省地理局が作成した実測図である。これは、明治 21(1888)年 8 月に公布された市区改正条例の以前のものであり、すなわち江戸の姿がわかる地図である。日本橋地域の現在と昭和期の地理情報を GIS 上でベースマップを作成した後(図 1)、明治初期の地理情報を重ね合わせることで(図 2)、江戸日本橋地域の復原地図が作成できた。

(3) **意義:**本研究を通じて、GIS 上で江戸日本橋地域における「町」の特定および復原地図の作成方法が提示できた。さらに、江戸後期の文献史料である『江戸買物独案内』と『江戸名物酒飯手引草』に記載されている社会文化的な指標を可視化することで(図 3)、今後、江戸後期の歴史事象に関する多様な分析や活用ができる。

(4) 参考文献:

- 菊地利夫(1984)『日本歴史地理概説』,古今書院。
- 玉井哲雄(1977)『江戸町人地に関する研究』,近世風俗研究会。
- 平井松午・安里進・渡辺誠(2014)『近世測量絵図の GIS 分析』,古今書院。
- 東京市日本橋区役所(1937)『新修 日本橋区史』,東京市日本橋区役所。
- 東京都中央区立京橋図書館(1995)『中央区沿革図集 日本橋篇』,東京都中央区立京橋図書館。

渡邊敬逸・村山祐司・藤田和史(2008)「歴史地域統計データ」の整備とデータ利用—近代日本を中心として—。「地学雑誌」,117(2), 370-386。

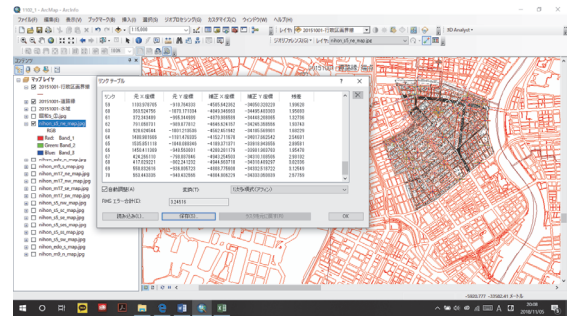


図 1:「昭和 5 年と現在の重ね合わせ(一部掲載)」

(注:日本橋地域における現在の地理情報と「昭和 5 年の帝都復興事業の区画整理前と整理後の対象図」からポイントコントロールを設定した。)

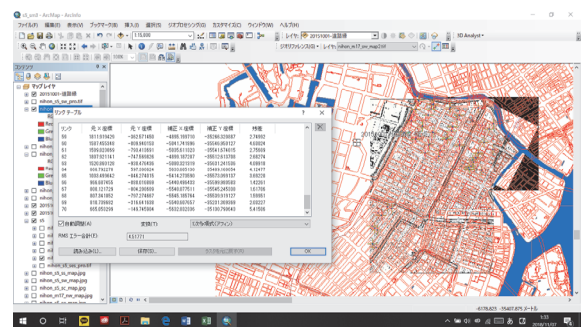


図 2:「昭和 5 年と現在の重ね合わせ(図 1)」と「明治期の市区改正前」の重ね合わせ

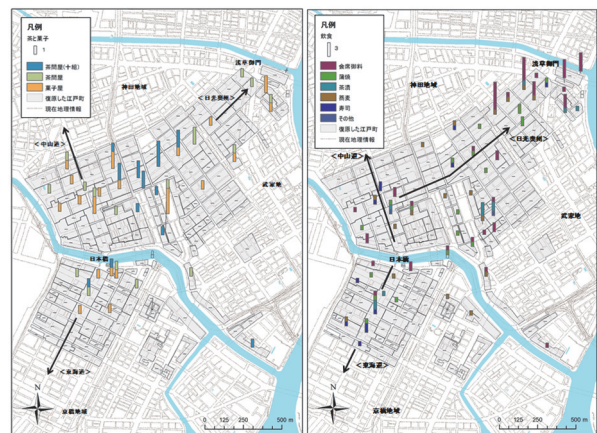


図 3:「歴史事象との組み合わせ(一部掲載)」

(注:『江戸買物独案内』と『江戸名物酒飯手引草』の日本橋地域の商業活動の記載内容を歴史事象とした。)